

2024年9月23日(月)

老球の細道830号

会津ミニバスケットボール・ジュニアカップ観戦雑感「コンクラーベ」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

イタリアのローマにあるバチカンでは新しいローマ教皇を決める選挙のことを「コンクラーベ」という。ニュースでも話題になるが、システイーナ礼拝堂の煙突から、新しい教皇が決まったら白い煙が上がり、決まらなかったら黒い煙が上がる。決まるまでに相当長い時間がかかり、白い煙が上がるまでには関係者のまさに「根比べ(コンクラーベ)」となる。

同じような根比べにミニバスの指導がある。2人の孫が城北ミニバスチームに加入して以来、週に1回親の代わりに練習の送迎をするようになった。送って行ったついでに練習も見学している。ヘッドコーチの佐藤公希氏を中心に保護者の方々が分担して子どもたちの指導に励んでいる。コーチの話をきちんと聞けない子ども、練習メニューがなかなかわからない子ども、上手くいかないと泣き出す子どもなどたくさんいる中、コーチ達は穏やかに、丁寧に、辛抱強く指導してくれている。まさにコーチと選手の根比べである。

そんな根比べの指導が少しずつ功を奏して来たのか、今回行われた小学5年生以下の「ミニバス・ジュニアカップ」において男子チームが大きな成長を見せて次につながる素晴らしい成績を残してくれた。1点差で勝利し、1点差で敗北とバスケの勝負において天国と地獄を同時に味わったが、今後のウインターカップに向けて大きな自信となっただろう。ユニフォームをもらえなかった孫息子は、帰宅してから大好きなペットの亀の様子を見ることもなく母親の実家にあるバスケットゴールに行き、姉と一緒にシュート練習をしてきた。

ジュニアカップは5年生以下の大会であるが、選手の移籍が自由になってからチーム力の差が大きくなってきたような気がする。しかし、それぞれのチームにダイヤモンドの原石は存在している。5年生のみならず4年生にも同等な力を持った選手はいた。順調に育っていけば、わが会津地区からも全国で活躍するチーム、選手の出現も夢ではない。

各チーム共、今大会において下級生の実力、自信が向上し、今後11月、12月に迎えるU-12のウインターカップ予選、県大会に向けての練習が一層充実することになるだろう。閉会式において、各チームに対して「日々の練習」の重要性について改めて話をした。特に日々の練習が真剣で充実した時間であるための「練習における規律の文化」の確立について力を込めて話をした。①コーチの話をよく聞く②練習のルール、チームのルールを守る③切り換え行動を早くする。これらの内容はシンプルであるが、習慣化するためにはまさに選手とコーチの「コンクラーベ(根比べ)」になるだろう。

現役コーチ時代に常に自戒してきたことであるが、練習による指導の効果は右肩上がりに出てくるわけではない。いくらコーチが熱心に良い指導をしても選手の向上が見えない(プラトー)、ひどい時は前よりも落ち込んでいる(スランプ)ことがよくある。それでもあきらめないで我慢強く指導を続けるとある日突然選手が大ブレイクする時が来る。災害と選手の成長は「ある日突然」やってくる。